

1. 中野地区

- 役場庁舎やおうら中央公園、本中野駅周辺は、本町の顔となる都市拠点の形成に努めます。
- おうら中央公園やシンボルタワー、町立図書館、中央公民館などを活用し、文化交流拠点としての機能向上を図ります。
- まちなか居住を促進するため、本中野駅の機能強化や商業活性化、安全・安心な歩行環境の整備などに努めます。

2. 中野東地区

- 既存住宅地や鶉地区の良好な居住環境の形成に努めます。
- 多々良沼や中野沼など、自然豊かな交流拠点として穏やかな環境の保全・育成に努めます。

3. 高島地区

- 松本公園や福祉センター、高島小学校、石打町営住宅等の周辺地区は、施設の連携強化を図り、生活拠点の形成を図ります。
- 広大な水田や平地林、遠景の山並みが織りなす穏やかな風景を維持し、既存集落の良好な居住環境の形成を図ります。

4. 長柄地区

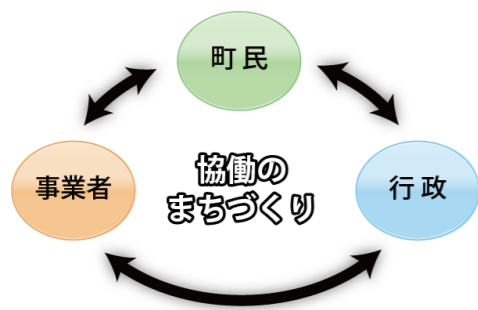
- 国道354号の広域連携機能を活用し、工業地の拡充・拡大や流通業務機能の拡充を図ります。
- 広域幹線道路沿道における商業機能の適切な規制・誘導を図り、生活拠点の形成に努めます。
- スポーツ・レクリエーション広場、町民体育館などを活用した文化交流拠点の形成を図ります。



計画の実現に向けて

協働のまちづくりを推進するために

町民や事業者、行政の相互理解のもと、それぞれの役割と責任を担いつつ協働してまちづくりを進めていきます。



計画の評価と見直し

- 施策の進捗状況を定期的に把握・評価し、課題を明らかにすることで、適正な見直しを行います。また、進行管理のための評価指標として、「町民のまちづくりへの評価」を設定します。
- 社会経済情勢の変化、上位関連計画の見直し等に依りて適宜見直しを行います。

お問い合わせ先 邑楽町役場 都市建設課

〒370-0692 群馬県邑楽郡邑楽町大字中野2570-1

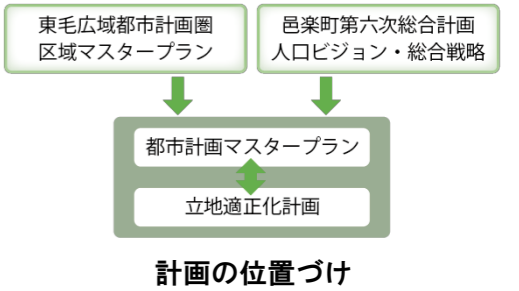
TEL: 0276-88-5511 E-mail: [urban@swan.town.ora.gunma.jp](mailto:urban@swan.town.ora.gunma.jp)

本計画の詳しい内容は、邑楽町ホームページをご覧ください。

都市計画マスタープランの位置づけと改定の背景

都市計画マスタープランは、地域の実情に即した土地利用や交通体系、都市施設整備などのまちづくりの将来ビジョンを明確化し、実現に向けたさまざまな施策を総合的かつ体系的に展開していくための、長期的な都市計画の指針となるものです。

さらに、主に市街化区域を対象とし、まちなか拠点の整備方針や拠点等を結ぶ公共交通ネットワークのあり方を定めた「邑楽町立地適正化計画」との整合性を図るものとなっています。



見直しのポイント

- 前計画策定（平成17年）からの社会情勢の変化に合わせた見直しを行いました。
- ◆ 「邑楽町第六次総合計画」や、県の「東毛広域都市計画圏 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（区域マスタープラン）」などの上位・関連計画との整合
  - ◆ 町民アンケート調査や「おうら“まちづくり”委員会」などの町民意向の反映
  - ◆ 本町の特性を再認識し、将来の人口の見通しや財政状況などを考慮した、邑楽町らしいまちづくりのあり方の検討

まちの将来像と将来都市構造

【まちの将来像】

豊かで穏やかなまちの魅力を守りながら、活力ある暮らしやすいまちをつくる

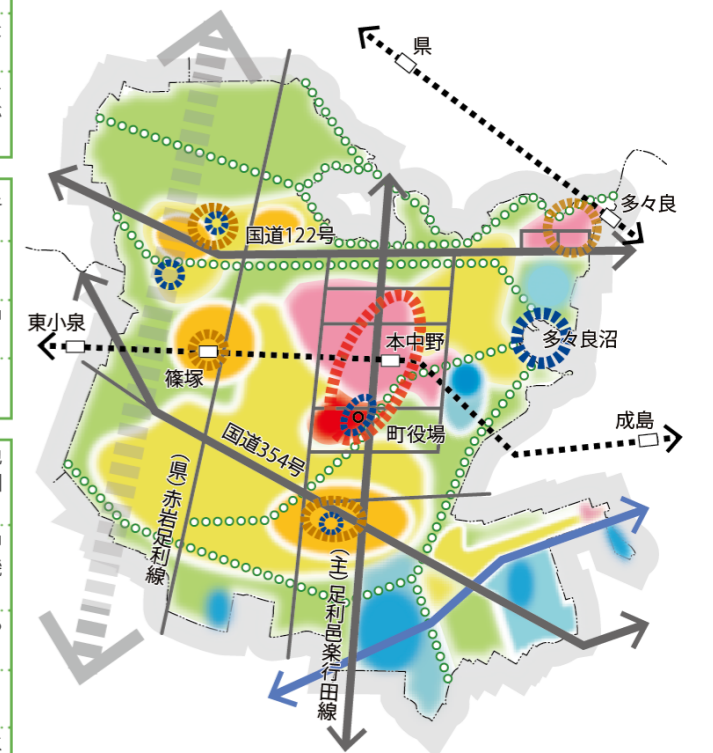
人口減少や少子高齢化が進む時代にあって、本町の個性的な魅力である豊かな自然や水辺環境、穏やかな田園景観を守りながら、まちの活力を創出するとともに、誰もが暮らしやすい“まとまりのあるまち”をつくり、次世代へ継承していきます。

【将来都市構造】

都市機能中心拠点	●	役場庁舎、図書館、中央公民館、本中野駅や商業施設など都市機能が集積するエリア
生活拠点	●	鶉地区、長柄地区（南中野周辺）、高島地区、篠塚駅周辺地区などの市街地や集落
文化交流拠点	●	図書館、中央公民館、おうら中央公園、スポーツレクリエーション広場、多々良沼公園など、近隣市町からの観光利用が見込まれるエリア

広域連携軸	↔	東西軸となる国道354号、国道122号、南北軸となる（主）足利邑楽行田線、（仮）両毛中央幹線など、都市間を結ぶ軸
産業支援軸	↔	（県）古戸館林線など、工業団地等の産業活動を支援する軸
町内交流軸	—	その他の一般県道及び主な都市計画道路など、都市拠点（中野地区）と各地区の生活拠点を結ぶ軸
水と緑の軸	○	矢場川、孫兵衛川、多々良川、新堀川、逆川、藤川などの、市街地や歴史・文化資源等を結ぶ水と緑のネットワーク軸

既成市街地ゾーン	●	市街化区域である中野地区や鶉地区周辺など、今後も市街地としての機能を果たし、住居系、商業系などの土地利用を図り、まちなか居住を促進するゾーン
都市機能集積ゾーン	●	役場庁舎、図書館、中央公民館、シンボルタワー、おうら中央公園など、複合的に公共施設が集積し、町の中心として機能するゾーン
産業ゾーン	●	国道354号沿いや町南部、新中野地区など、工業地の維持や拡充、流通業務機能の集積を図るゾーン
既存集落ゾーン	●	のどかな住環境を維持するゾーン（大規模指定既存集落）
田園住宅ゾーン	●	無秩序な開発を抑制し、穏やかな田園集落の環境を維持すべき、農村集落等が点在する地区
田園保全ゾーン	●	持続・保全を図るべき、優良農地や自然環境豊かな水辺、平地林など



将来都市構造図

↔ 幹線道路（仮：両毛中央幹線）    ↔ 鉄道    □ 行政界

土地利用

- まちの中心部の再生と、低密度な市街地拡散を抑制して緩やかに“まちのまとまり”を形成
- 市街化調整区域の既存集落の維持のための日常生活を支援する生活拠点の形成
- 豊かな自然環境や優良農地、歴史文化資源等の適正な保全、活用
- 農業政策との十分な連携のもとでの農地の土地利用のあり方の検討

道路・交通体系

- 都市圏・町内の連携強化に向け「広域連携軸」「産業支援軸」「町内交流軸」による骨格形成
- 生活道路や歩行空間の安全性向上のための計画的な改善、維持
- 楽しく安心して歩ける歩行者ネットワーク形成や平坦な地形特性を生かした自転車の利用促進
- 周辺市町と連携したバス交通再編や鉄道との交通結節が可能な環境の整備等による利用促進

公共施設（学校・福祉施設・下水道など）

- 人口減少や少子高齢化による需要の変化に応じた効果的な活用と効率的な運営管理

水とみどり

- おうら中央公園や松本公園などの公園の利用促進・有効活用
- 多々良沼や孫兵衛川などの水辺や平地林、社寺や古墳群などの歴史資源等を保全・活用
- 地域ボランティア団体等との協働による公園やみどりの適切な維持管理

景観まちづくり

- 魅力ある街並み景観の向上による賑わいづくりや良好な住環境の創出
- 市街地周辺に広がる農地や平地林が織りなす穏やかな田園景観の保全
- 社寺などの歴史資源と周辺の平地林や農地と合わせた景観の保全・継承

防災まちづくり

- 建築物・構造物の安全性向上や避難訓練の実施など、ハード・ソフト両面から都市防災の向上

【代表的な方針】

本中野駅周辺では、駅前空間や生活道路の拡充、歩道の設置などにより、安全で快適なゆとりある住環境を形成し、まちなか商業施設、子育て、医療などの生活サービス施設を立地誘導

松本公園や福祉センター周辺では、生活サービス機能の集積を生かした生活拠点と位置づけ、複合機能化を検討

役場やおうら中央公園周辺では、役場庁舎や保健センター等の既存施設を活用し、都市拠点としての機能拡充及び本中野駅周辺との連携強化

篠塚駅周辺をはじめとする「大規模指定既存集落」では、のどかな住環境を維持しながら地域住民の生活機能を向上させるため、生活基盤を適正に維持、改善

大黒保安林は、次世代へ継承すべき資源として、関係機関や地域との協働のもと、積極的な保全を推進

国道354号沿いの長柄小・スポレク広場周辺は、公共施設の集積を生かした生活拠点と位置づけ、複合機能化を検討しながら、スポーツ施設の集積を生かした文化交流拠点として機能強化

鶉地区では、良好な居住環境の享受に向けて土地区画整理事業を推進し、町民の生活利便性向上に資する機能を拡充

多々良沼公園は、町内外からの来訪者の自然休養地として、良好な景観・風致を維持し、県や館林市との連携のもと、交流人口拡大に向け利用促進

本町の経済活動の基盤となる工業の重要生産地区として、国道354号の広域連携機能を活用し、工業地の拡充・拡大や流通業務機能の拡充を検討

本中野駅の交通結節機能向上のための駅前広場整備や橋上・複合駅舎化などの可能性検討



凡例			
〈都市的土地利用〉			
既存市街地	新市街地	新規住宅地	産業地
工業地拡大候補地	都市機能中心拠点	生活拠点	文化交流拠点
〈自然的土地利用〉			
既存集落地(大規模指定既存集落)	田園住宅地(その他の集落)		
田園環境保全地	自然環境保全地		
〈幹線道路〉			
広域幹線道路	(仮称)両毛中央幹線	産業支援軸	町内交流軸
鉄道	道路	河川	市街化区域
			行政界